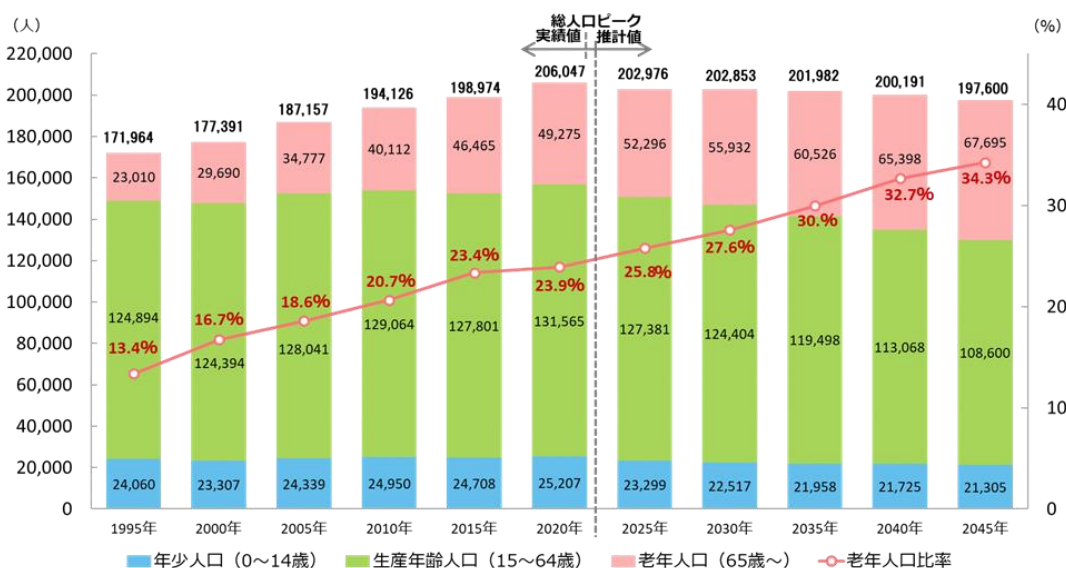


◆西東京市における人口特性

■総人口と年齢 3 区分比率の推移

- ・本市の住民基本台帳に基づく総人口は、継続的な増加傾向にあり、平成 29（2017）年には 20 万人に達した。
- ・今後の人口の見通しとしては、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると令和 2（2020）年をピークに緩やかに減少に転じる見込みであったが、令和 3 年 3 月末時点で市の人口は 206,067 人と未だ減少傾向にはない。
- ・65 歳以上人口は、一貫して増加する見込みであり、令和 27（2045）年には 34.3%まで増加する見込みである。

< 総人口と年齢 3 区分比率の推移 >

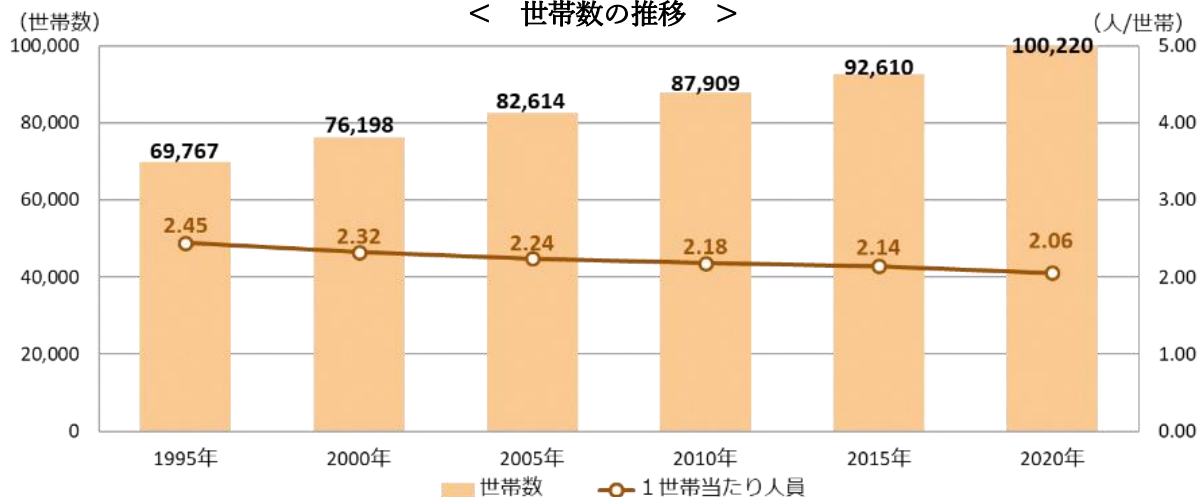


出典：住民基本台帳（1995～2020 年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 30 年）

■世帯数の推移

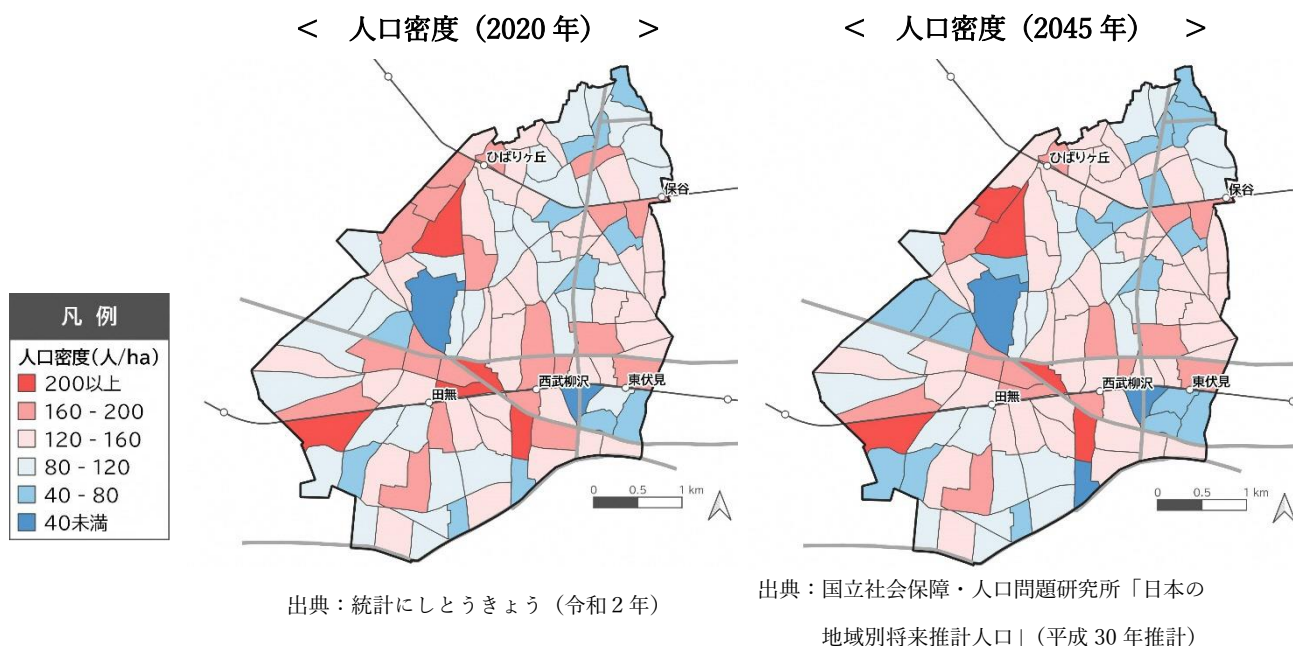
- ・住民基本台帳に基づく世帯数は、人口増加とともに一貫して増加傾向にあるが、一方で、1 世帯当たり人員は減少傾向にある。

< 世帯数の推移 >



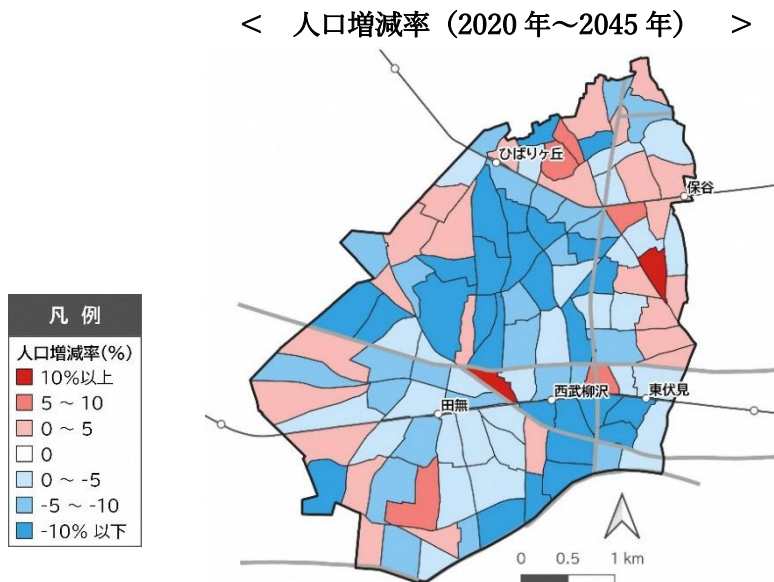
出典：住民基本台帳（1995～2020 年）

■人口密度



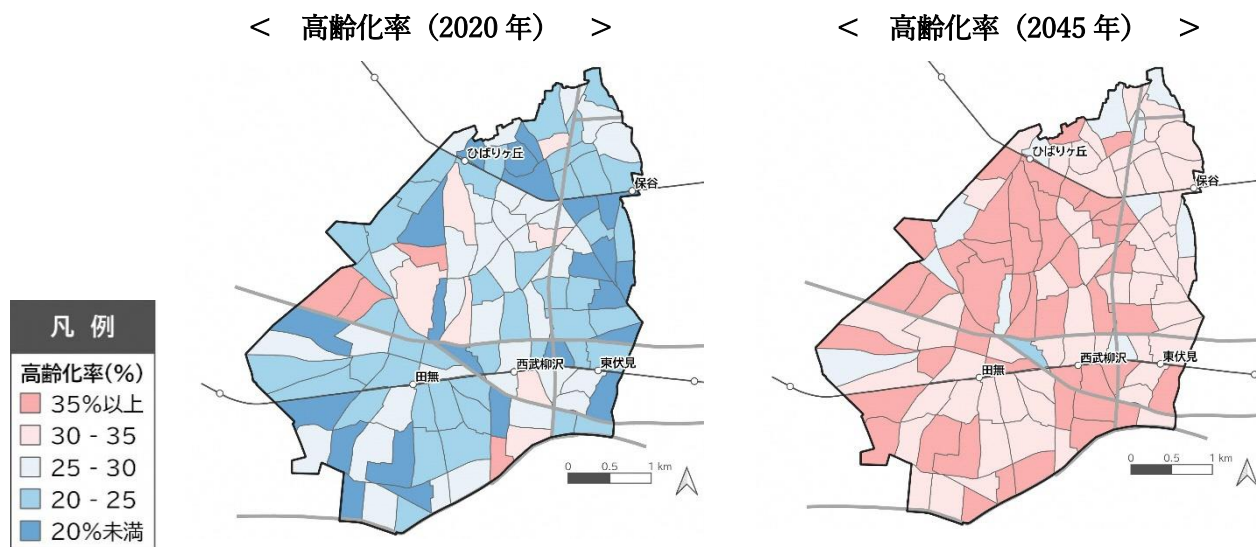
- ・本市は宅地を主とした都市であるため、人口密度は令和2（2020）年において、東京都内の隣接市4市と1区の平均約98人/haと比較して約130人/haと高く、市の大半が120人/ha以上となっている。
- ・特に、谷戸町、田無町、芝久保町、柳沢などでは、人口密度が200人/ha以上と高い状況である。
- ・令和27（2045）年での推計においてもその傾向は続き、高い人口密度が見込まれる。

■人口増減率



- ・令和2（2020）年から令和27（2045）年の町丁目別の人口増減率を見ると、西武池袋線の各鉄道駅周辺やひばりが丘団地周辺、市東部の東町などでは増加見込みの一方で、西武新宿線の各鉄道駅周辺や市中央部の緑町や谷戸町などでは減少見込みとなっている。

■高齢化率



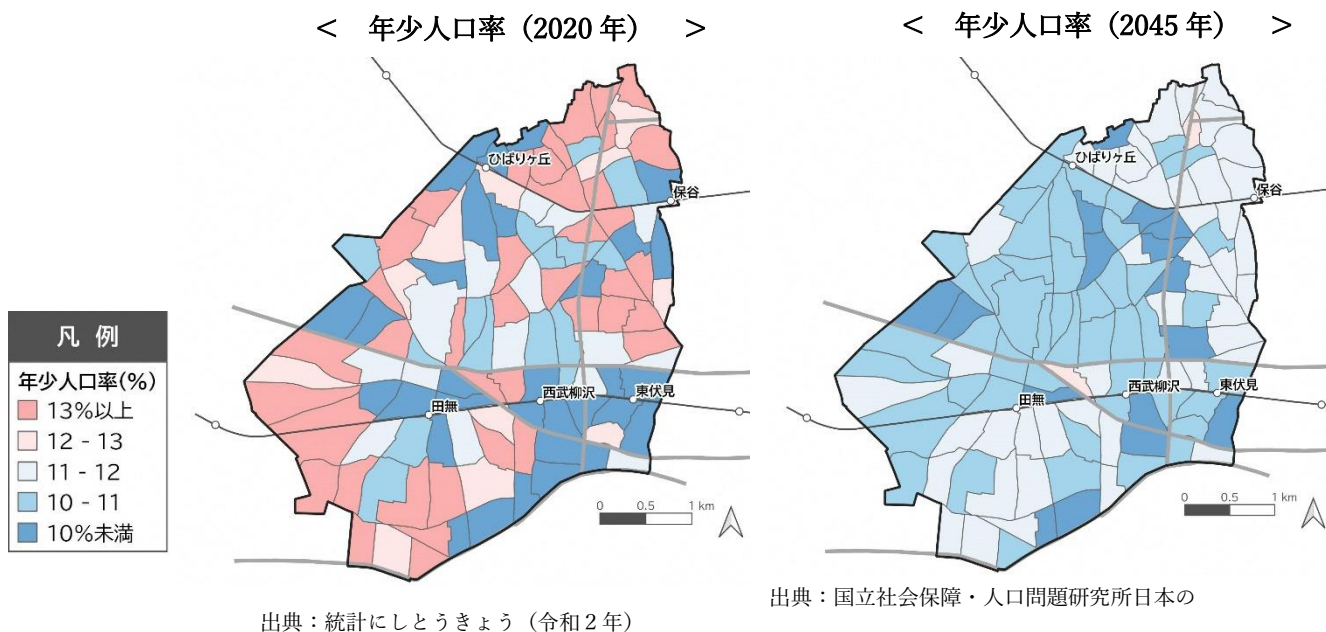
出典：統計にしようきょう（令和2年）

出典：国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口」（平成30年推計）

- ・令和2（2020）年の高齢化率（65歳以上）は、全市平均が23.9%である中、市西部の西原町や西武柳沢駅の南側で高齢化率が30%を超える状況となっている。
- ・令和27（2045）年の見込みでは、全市的に高齢化率が増加傾向の中、保谷駅を除く各鉄道駅周辺や市中央部の谷戸町において高齢化率が35%を超える見込みである。

■年少人口



出典：統計にしようきょう（令和2年）

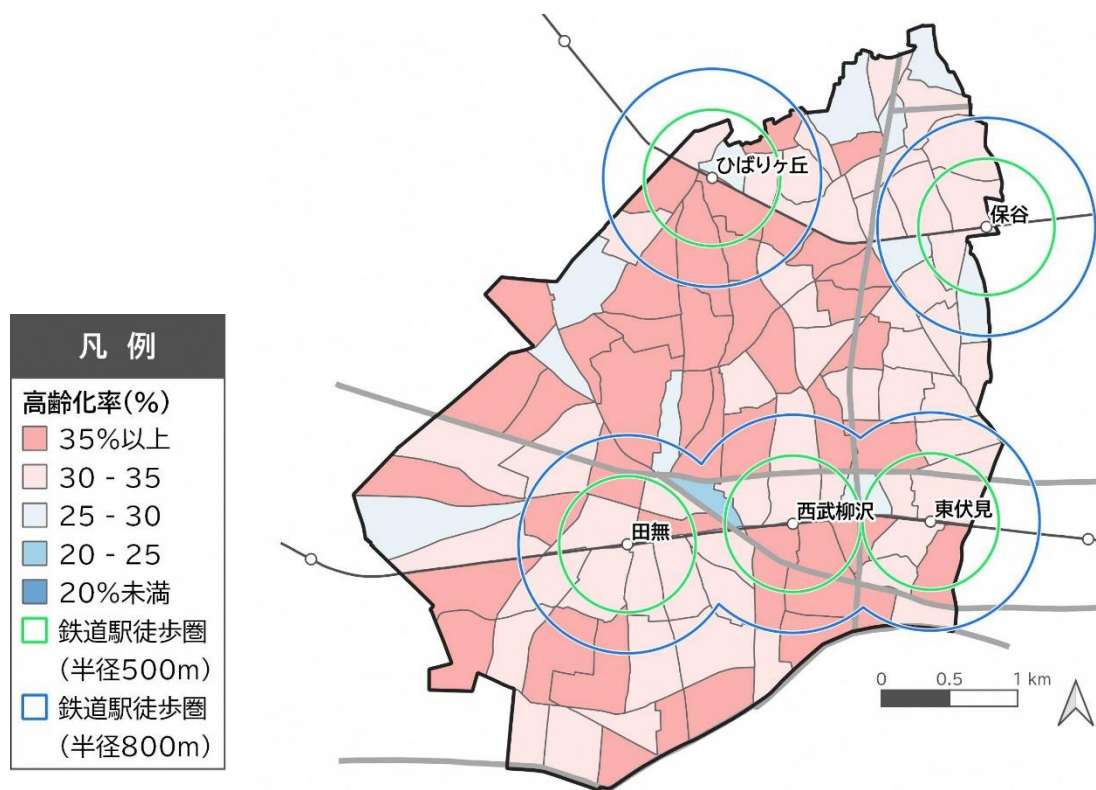
出典：国立社会保障・人口問題研究所日本の

地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）

- ・令和2（2020）年の年少人口率（0歳以上14歳以下）は、全市平均が12.2%である中、鉄道駅周辺の一部や市南東部の柳沢などでは低い割合を示している。
- ・令和27（2045）年の見込みでは、全市的には人数・割合ともに令和2（2020）年から緩やかに減少する見込みの中、令和2（2020）年は全市平均と比べて低い割合を示していた鉄道駅周辺や市東部の東町などでは増加の見込みである。その一方で令和2（2020）年は比較的高い割合を示していた市北部の北町などや市南西部の芝久保町などでは減少の見込みであり、市内全体としては、減少傾向になっていく見込みである。

■人口特性を踏まえた拠点検討に向けて

< 高齢化率（2045 年）と駅拠点からの徒歩圏 >



- ・本市は、一定の人口と人口密度を将来的にも維持しているが、高齢化については、大きく変化していくことが想定される。
- ・今後、市内の鉄道5駅などを拠点とし、拠点周辺の在り方について検討する際は、将来的な人口特性を考慮する必要がある。
- ・市としては、今後、市全域で高齢化が進展する状況を踏まえ、駅拠点からの徒歩圏を「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」による一般的な徒歩圏（半径 800m）ではなく高齢者に配慮した徒歩圏（半径 500m）で検討を進めたいと考えている。
- ・また、拠点周辺の都市機能の誘導にあたっては、65 歳以上の高齢者だけではなく子供たちや子育て世代にも配慮し、検討を進めたいと考えている。